

第3学年 国語科学習指導案

日時：令和3年11月16日（火）第5校時  
場所：清水小学校 3年生教室  
授業者：

1 単元名 「すがたをかえる大豆／食べ物のみみつを教えます」

2 単元・教材について

本単元は、「すがたをかえる大豆」と「食べ物のみみつを教えます」の複合単元である。始めに「すがたをかえる大豆」について読み取る活動を通して、作者が読者を納得させるための書き方の工夫や絵の提示の仕方の工夫に気付き、作者の考えと理由や事例との関係を使った論の進め方について考える。次に、「科学読み物での調べ方」と「食べ物のみみつを教えます」を読む活動を通して、事典での調べ方について理解し、得られた情報をもとに、「すがたをかえる大豆」で学習した表現の工夫を活用し説明する文章を書くことができるようにする。

そこで、「すがたをかえる大豆」では、「食品」「おいしく食べるくふう」「作り方」という3つの読み取りの視点を提示することで、筆者の表現の工夫を捉えて読み取ることができるようにする。

3 研究との関わり

- (I) - 2 「筆者の書き方の工夫で自分がまねしたいことは何かな。」というきよみずガエル君を設定し、自分が書く説明文の書き方を見つけることができるようにする。
- (II) - 2 「おいしく食べるくふう」と「食品」を表に表すことによって筆者の例示の仕方の工夫に気付くことができる。

4 単元の目標

- ◎自分の考えとそう考えた理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
- ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。

単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使っている。(2イ)	「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1ウ) 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C1ア)	筆者の考えと事例との関係について、叙述を基に読み取ろうとしている。 読者に分かりやすい文章になるように、書き方を工夫しながら説明する文章を書こうとしている。

5 単元指導計画

時	単元時間の目標	評価規準	並行読書
1	1 「すがたをかえる大豆」を読み、文章構成を捉えたり初発の感想を書いたりする活動を通して、本文の大意について捉えることができる。	「すがたをかえる大豆」を読んだ初発の感想を進んで書いたり、国語辞書を使って自ら語句を調べたりしている。(学びに向かう力・人間性)	すがたをかえる食べ物のみみつ①②③④⑤⑥⑦(香西みどり監修)／いろいろなたべもののはじまり①②(奈良本辰也監修)
2	2 「はじめ」を読み取る活動を通して、大豆を加工した食品とその工夫についての筆者の問いについて気付き、筆者の書き方の工夫を捉えることができる。	「はじめ」の内容に書かれた筆者の問いを、叙述を基にとらえている。(思考力・判断力・表現力等)	
	3 「食品」「おいしく食べるくふう」「作り方」という3つの視点で③～⑤段落の内容を読み取る活動を通して、接続詞や「～のくふう」という言葉を使って問いに対する答えを書いていることに気付き、筆者の書き方の工夫について捉えることができる。	「食品」「おいしく食べるくふう」「作り方」という読み取りの視点から、問いに書かれた内容を、叙述を基に読み取っている。(思考力・判断力・表現力等)	
	4 本時 「食品」「おいしく食べるくふう」「作り方」という3つの視点で⑥、⑦段落の内容を読み取る活動を通して、「中」全体を通して筆者は例を多く提示することで読者を説得しようとしていることに気付き、筆者の書き方の工夫を捉えることができる。	「中」における筆者の書き方の工夫を考えている。(思考力・判断力・表現力等)	
	5 「終わり」を読み取る活動を通して、「このように」という接続詞を使って内容をまとめていることに気付き、筆者の書き方の工夫について捉えることができる。	筆者の主張について、叙述を基に読み取っている。(思考力・判断力・表現力等)	
	6 「すがたをかえる大豆」を読み取る活動から文章構成や接続詞の使い方について学んだことを整理する活動を通して、読者に分かりやすく伝えるための工夫には様々な手法があることに気付き、書き方の工夫をまとめることができる。	段落同士のつながりや役割について考えている。(思考力・判断力・表現力等)	
3	7 科学読み物での調べ方を読む活動を通して、科学読み物には目次や索引、奥付等があることに気付き、実際に調べることができる。	事典や辞書の使い方について理解している。(知識・技能)	
	8 すがたをかえて食品になる材料について自分で調べる活動を通して、身近な食品の中にすがたをかえた食品があることに気付き、自分が調べたい材料を1つ決め、その材料からできる食品について調べることができる。	事典や辞書の使い方について理解し、実際に調べている。(知識・技能)	
	9		
	10		
	11 説明する文章を書く活動を通して、図や表に整理すれば考えを整理できることに気付き、「すがたをかえる大豆」で学んだ筆者の書き方の工夫を活用することができる。	読者に分かりやすく伝えるための工夫を考え、説明する文章を書こうとしている。(学びに向かう力・人間性)	
	12 説明する文章を書く活動を通して、接続詞を使った例の挙げ方や挿絵など書き方を工夫することで、下書きを書くことができる。	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、説明する文章の下書きを書いている。(思考力・判断力・表現力等)	
	13 説明する文章を書く活動を通して、推敲することでより伝わりやすい文章を書くことができることに気付き、「すがたをかえる大豆」で学んだ内容を使って文を書くことができる。	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係に着目して、推敲している。(思考力・判断力・表現力等)	
	14 説明する文章を書く活動を通して、下書きした文章をもとにして清書を書くことができる。	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、説明する文章の清書を書いている。(思考力・判断力・表現力等)	
	15 説明する文章を読み合う活動を通して、書き方や内容など互いの文章のよいところについて気付き、よさを伝え合うことができる。	学習した内容を基に、相手に分かりやすい工夫を見つけ、そのよさを伝えている。(学びに向かう力・人間性)	



## 6 本時のねらい (4/15)

「食品」「おいしく食べるくふう」「作り方」という3つの視点で⑥、⑦段落の内容を読み取る活動を通して、「中」全体を通して筆者は例を多く提示することで読者を説得しようとしていることに気付き、読者に分かりやすく伝えるための筆者の書き方の工夫を捉えることができる。

## 7 本時の展開

単元のきよみずガエル君 筆者の書き方の工夫で、自分がまねしたいことは何かな。せつめいする文章を書く時に、自分が気をつけたことは何かな。

### 第3ブロック(終末)

#### 振り返り(きよみずガエル君)

・ぼくは、たくさん写真を使って、分かりやすく書きたいです。  
・私がまねしたい筆者の書き方の工夫は、つなぎ言葉を使って書くことです。  
・ぼくがまねしたい筆者の書き方の工夫は、たくさん例を書いて説明することです。

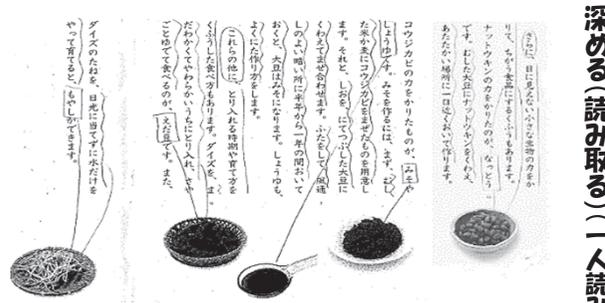
#### まとめ

筆者は、多くの例を出して分かりやすい順に書いている。

### 第2ブロック(展開)

#### 深めの発問

・どうして、この順番で例をあげているのだろうか。  
・作り方が簡単なものから例をあげている。  
・形があるものから順番に例をあげている。



「食品」  
・なつとう ・みそ ・しょうゆ ・えだ豆 ・もやし

「おいしく食べるくふう」  
・目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふう  
・とり入れる時期や育て方をくふうした食べ方

「作り方」  
・むしたナットウキンをくわえ、あたたかい場所に一日近く置いて作ります。  
・むした米か麦にコウジカビをまぜる  
・ふたをして風通しのよい暗い所に半年から一年の間おく  
・やわらかいうちに取り入れ、さやをゆでて食べる  
・日光を当てずに水だけをやって育てる

深める(読み取る)一人読み↓全体交流

#### 課題

⑥⑦段落を読み取り、「中」での筆者の書き方のくふうを見つけよう。

### 第1ブロック(導入)

#### つかひ

・⑥⑦段落には、どのような例が書かれているだろうか。  
・写真を使って説明していた。  
・③④⑤段落には、大豆を使った食品の例が書かれていた。  
・つなぎ言葉が使われていた。

#### 前時までの学習の振り返り

・キーワードを使って、自分の言葉でまとめを書く。  
・きよみずガエル君では、「中」で読み取った筆者の書き方の工夫を、第3次で自分がどのように使いたいかを振り返る。

・読み取る内容を考えながら本文が読めるように、課題後に一人で音読をする。  
・本文と挿絵をつなぐことで、絵が文章の補助をしていることに気付くことができるようにする。  
・「食品」「おいしく食べるくふう」「作り方」という3つの読み取りの視点を提示することで、⑥⑦段落には、どのような例が書かれているのかを読み取る。  
・掲示物を活用して、「中」全体の筆者の書き方の工夫を考えるためのグループ活動を行う。特に、接続詞を用いて多くの例をだしていることを確認し、その理由を考えられるようにする。  
・「中」全体に視点を向け、筆者の書き方の工夫について考えられるようにする。  
・「おいしく食べるくふう」「食品」、写真を表にしながら板書することで、多くの例があることが理解できるようにする。また、写真から、分かりやすい例から順にあげていることに気付かせる。

・掲示物等を活用し、これまでに筆者がどのような例をあげたのかを端的に振り返る。